

放課後等デイサービス 支援プログラム (公表)

作成：2024年10月1日

株式会社 Office Zoo

放課後等デイサービスにおける支援とは

- ▶ 放課後等デイサービスでは、学齢期の障がいのある子どもに対し、個々の障がいの状態や発達状況に応じた発達支援を総合的に提供するものとして位置付けられています。

本人支援

5領域（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）の視点を踏まえ、障がいの特性等に応じた発達上のニーズに合わせて行う本人への発達支援

家族支援

障がいのある子ども本人の状況や家庭の状況等を踏まえ、子どもの発達の基盤となる家族への支援、また家族のウェルビーイングの向上にもつなげる支援

移行支援

障がいのある全ての子どもが共に成長できるよう、学校等と連携を図りながら、放課後児童クラブ等との移行に向けた支援、また地域の社会活動への参加・包摂（インクルージョン）を推進するための支援

地域支援・地域連携

障がいのある子どもや家庭に関わる関係機関と連携を図りながら、子どものライフステージに沿って、子どもや家族を包括的に行う支援、また切れ目のない一貫した支援を提供する体制の構築

「支援プログラム」とは

- ▶ 「支援プログラム」とは、上記に示す各支援について、事業所全体で取り組む総合的な支援内容を示したプログラムです。
- ▶ 令和6年4月より、放課後等デイサービスにおいては、総合型支援の推進や支援の見える化を目的として、各事業所の支援プログラムの作成と発達支援の5領域との関連性を明確にすることが求められるようになりました。

法人理念

『持続的な支援』を提供することを目指し、ご利用者、ご家族、そして地域に貢献できる企業として、楽しく明るく元気よくをモットーにスタッフの成長とともに歩んでまいります。

事業所情報

- ▶ 放課後等デイサービス Zoo安芸 since2011 / 広島市南区向洋大原町38-5
- ▶ 放課後等デイサービス Zoo since2012 / 広島市安芸区矢野南5-18-15
- ▶ 放課後等デイサービス Zooの駅 since2015 / 広島市安芸区中野東4-7-39-104
- ▶ 営業時間 / 【平日】 10:00~19:00 【土・祝日・夏休み等長期休暇】 9:00~18:00
- ▶ 送迎 / 有り

「支援プログラム」の取組方針

- ▶ 弊社では、PDCAサイクルを基本とする支援を前提に、事業所共通の基礎的な発達支援プログラム（**共通プログラム**）と各事業所独自の活動プログラムを通じた発達支援プログラム（**事業所プログラム**）を設け、子どもの障がい特性や発達状況に応じたさまざまな支援に取り組みます。



共通プログラム

事業所共通



支援方針

アセスメントによる障がい特性等の現状把握を踏まえ、食事や排泄・着脱等の日常生活に必要な基本的な課題やスキルをスタッフと一緒に楽しみながら取り組みます。またその上で、モニタリングによる発達支援の進捗を確認し、各事業所における独自の活動プログラムへと繋げていきます。

支援内容

本人支援	日常生活支援	障がいの特性や発達度合いを通じて個々の成長に合わせて必要な日常生活動作の習得ができるよう支援します。自由時間や遊びの中に取り入れることで、子どもが自然に日々の生活において繰り返し行う一連の活動や習慣として行うことができるよう、自立へと促していきます。また、小さな成功体験を積み重ねていくことで、自分でできることをさらに増やし、自己肯定感を高めていきます。	5領域を踏まえた支援内容 ※実施している支援内容の一部です。	健康・生活	心身の健康状態の把握、手順書や写真・図柄などの配慮を踏まえ、食事マナー・衣類の着脱、身の回りの整頓、挨拶などに基本的な生活スキルを習得します。
				運動・感覚	基礎的な姿勢や体づくりなどの粗大運動をはじめ、つかむ・ひっぱる、はる、描く、切るといった微細運動に関する支援を行います。
				認知・行動	色彩、比較、時間概念、数や図形等の感覚・知覚に関する支援を行います。
				言語・コミュニケーション	指示やその理解に関する支援、身振りやサイン等の非言語、また2語文や3語文等の言語の習得・理解等に関する支援を行います。
				人間関係・社会性	「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」といわれる支援を行うことで、ルールを守る、指示に沿った行動ができる、など社会に適応するためのスキルアップを目指します。
家族支援		家庭内での発達支援や子どもの成長を支えるためのペアレントトレーニングや子育ての悩みなどの相談・助言等を行います。また、兄弟姉妹への相談援助のほか、アタッチメント（愛着）のサポート、障がい特性に配慮した家庭環境の整備等を支援します。			
移行支援		インクルーシブの観点から、ライフステージの切替を見据えた移行準備や、地域全体で子育て支援を活性化するネットワークを作るために関係機関等と連携し、子どもが地域のさまざまな場面で適切な支援を受けられるようにします。			
地域支援・地域連携		地域の社会資源を積極的に活用し、遊びや体験・交流の場を広げたり、相談支援事業所や学校、医療機関、関連事業所等との情報共有や調整・連携、相談援助等に取り組みます。また学校への送迎時には、学校での子どもの状況把握等を徹底し、支援の向上に取り組んでいます。			
職員の質の向上		支援に関わる人材の知識・技術を高めるため、毎月、障がい特性や支援に関する研修・プレゼン、カンファレンス、法制度に関する基礎知識の習得等を実施し、発達支援の専門家集団として、積極的なスキルアップに取り組みます。			
主な行事		季節に合わせた行事（初詣、お花見、遠足、お祭り、運動会、クリスマス会等）を企画したり、インクルーシブの観点から、地元の公園や施設、地域のイベントに積極的に参加します。			

事業所プログラム①



支援方針

「やってみたい」を出来るだけ実現し、自己肯定感を高め、他者にも寄り添うことができる支援を行っています。一人ひとりの意見を否定せずに受け止めていくことで更に自信をつけることを目指し、「やってみたい」をたくさん見つけて発信できるようにしていきます。また、自己肯定感を上げることで他者への思いやり、状況判断を適切に出来るようにすることで地域社会に適応できるように導いていきます。

支援内容

活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
本人支援 フレイルアップ	心と身体の健康は密接に関係しておりゲーム感覚の活動やマット運動、体幹運動などを取り入れることで心身の健康を習得できるようにしています。また一人ひとりの個性を活かしていく活動を取り入れることで苦手意識の克服を目指していきます。	健康・生活	活動前に本人に合わせて説明（視覚支援等）していきます。必要に応じて見本などを示していく事で見通しを持って楽しめるように支援を行っています
		運動・感覚	運動への抵抗感、集団の中に入ることが苦手な子どもへは興味を持てるようにゲーム感覚で楽しめるように支援を行っています。役割を任せていくことで、参加意欲を高めていっています。
		認知・行動	本人に合わせて情報を理解しやすいように環境面も整えて支援を行います。その中でも理解が難しい場合は見本を示しながらゆっくりと本人に合わせてながら支援を行います。
		言語・コミュニケーション	集団参加への意思決定が難しい子どもには、スタッフが寄り添い気持ちを汲み取っていきます。その上で絵カードや文字カードなどの手段を用いるなどの支援を行っています。
		人間関係・社会性	集団が苦手な時はまずは小集団から慣れてもらうよう配慮します。その上で不安感など見られる場合、参加しやすい役割を与えるなどから始めて、「やってみたい」という気持ちを高められるように支援しています。

※事業所で実施している支援内容の一部です。

支援内容



本人支援	活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
				※事業所で実施している支援内容の一部です。
本人支援	ライフアップ	<p>社会に出たときに自分の事や自分の身の回りの事ができるよう役立つ支援や環境整備を行っています。自分だけではできないことや困った時に、他人に助けを求めることができ、また他人の困りごとにも気づける感覚を養うことで、社会や他人との関わり方を学んでいきます。</p>	<p>健康・生活</p> <p>自分が遊んだ部屋を「綺麗に片付けた」を実感できるように掃除に取り組みます。日々役割を分担を変えて、ほうきや雑巾や掃除機を使うことにより、清潔な環境を保ち、道具を使いこなすスキルを身に付けます。掃除の時間、担当をボードに表示して、自分の役割を確認できるようにします。子ども自身の今できることや意向を確認し、まずはボード拭き→ゴミ集め→掃除機、の様にできることを増やしていきます。</p>	<p>運動・感覚</p> <p>一日のスケジュールをボードに示し、チャイムで行動の切り替わりが分かるようにします。「今は何に取り組むのか」「次に何をするのか」を考えることができ、タイマーなどを活用しながら見通しを持って行動できるよう支援します。</p>
	ライフアップ	<p>認知・行動</p> <p>日々の活動で「できた」を実感できるよう『ポイント制』を導入しています。「片付けたね」「レクに参加できたね」をひとつひとつ積み重ねて、日々のポイントが増えていきます。ポイントが貯まると「好きな〇〇と交換できるね」「もう少し頑張ってみよう」と目標を目指すことで頑張れるようにします。</p>	<p>言語・コミュニケーション</p> <p>恥ずかしくて言葉を出せない子どもに対しては、スタッフがマンツーマンでつき、心を解きほぐせるように信頼関係を構築し、少しずつ自分の気持ちを伝えていけるようにします。分からないことを発信できない子どもにはSOSカードを使うことで困りごとの発信ができるようにします。</p>	<p>人間関係・社会性</p> <p>毎月一度外出して買い物や外食を体験します。店員さんとの人とのやり取りをすることで、自分から発信できるようになること、お金を計画的に使えることになることで、日常生活に必要な社会性や経験を身に付けます。</p>
本人支援	イマジネーション	<p>四季折々の季節を感じる工作・クッキング・音楽等の創作活動を通して、楽しみながら自らの表現力を豊かにする取り組みを行っています。また「できた!」「やりたい!」を経験できる活動を提供し、自己表現を通じて自己肯定感を高め、更にお友達の共感を目指します。</p>	<p>健康・生活</p> <p>季節感をイメージできるように写真やイラストで想像し視覚からアプローチをしてタイムスケジュール表で次の見通しを示します。</p>	<p>運動・感覚</p> <p>感覚過敏の子どもには手袋やイヤーマフの使用で慣れた道具、慣れたスタッフと安心できる空間で個別対応します。無理なく障がい特性に合った工程で一つの活動に参加出来たら一緒にできた喜びの感覚を身に付け五感を刺激していき、今後の生活イメージを繋げていきます。</p>
	イマジネーション	<p>認知・行動</p> <p>情報量が多く処理できず、パニックになる子どもにはスモールステップで補助道具や補助調理具などを用いて、一つずつの工程を示しイメージ出来たら褒めて達成感を実感してもらう。</p>	<p>言語・コミュニケーション</p> <p>子ども同士でやってみたいクッキングや工作や音楽など一人ずつ考える時間を取り意見を聞き、個人の特性に合わせ、スタッフが役割を見極めます。</p>	<p>人間関係・社会性</p> <p>意志発信が難しい子どもには、個人の意思を尊重しつつ時に助言しながら、絵カードやホワイトボードやジェスチャーで自分の思いをイメージし伝える練習をしています。</p>

支援内容



本人支援	活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
			※事業所で実施している支援内容の一部です。	
本人支援	ソーシャルスキルトレーニング (基礎編)	<p>ソーシャルスキルトレーニングにより、人との関わり方や言葉の使い方等について日常生活の中で自然に習得できるようにし、社会生活への参画を促します。また、自分自身を大事にすることで他者へも同様に優しくなれるよう、意見に対して否定せずに褒めることで自尊心を高めてきます。</p>	健康・生活	活動前にボード等で個別に本人に理解しやすい方法（絵カード等）を活用して理解力を高める支援を行っています。それを凡庸化していくことで習慣化を図っていきます。
	ソーシャルスキルトレーニング (応用編)	<p>事業所で行う季節の行事やレクリエーションの内容、やってみたいことなどを子どもたち同士で話し合う時間を設けています。</p> <p>毎年子どもたち同士での選挙によって選ばれた「執行部」が中心となり、生徒会ならぬ「デイ会」を開催し、意見を否定せず、なるべく全員の考えが反映できるようにする、などの決まりを設け、模擬的な社会参加の促しを行っています。</p>	運動・感覚	活動前に、ルールとして適切な声のトーンで発信し促しを行います。苦手な声や音がある場合はイヤーマフなどを使用して支援を行っています。
			認知・行動	落ち着いて活動できるように出来るだけ少人数（スタッフと一緒にまたはなじみのお友達）で行っていきます。その中で想いを発信するだけでなくわからないことを伝えていけるような環境を作っていきます。
			言語・コミュニケーション	普段は意思決定ができていても集団だと緊張したり、自信がなくて言葉や文章にして発信できなくなってしまうことがあります。絶対に意見は否定しないことを伝え、少しでも意思を伝えることができた褒めるなど、自己肯定感を高める支援を行います。
			人間関係・社会性	集団の輪の中に入ることに不安や抵抗感があるときは、本人と話し合いながら、少しずつ関わりを持てる役割を担ってもらうなど、安心して輪の中に入れるよう、本人の気持ちを尊重していきます。
			健康・生活	始まりと終わりの時間をタイマーを使って区切ることで、集中すべき時間を明確化します。話し合いのルールはその都度全員で確認し、話し合い内容をホワイトボードに書く際には番号・やじるし・色分けを使用して簡潔に伝えます。
			運動・感覚	個々の特性に応じ、窓側や入口の近くなど、本人が安心してできる空間の提供します。また、イヤーマフの使用や人が密集する場所の回避、適度な球形の確保によって普段がないように配慮します。
			認知・行動	絵や写真、実物などを使用する、曖昧な表現を避け、具体的な言葉を選ぶ等、個々の特性にあった伝え方をします。話し合った内容を振り返る時間を作り、問いかけながら情報の整理をしていきます。
			言語・コミュニケーション	無理に発言を求めずに選択肢に「パス（意見しない）」を取り入れたり、頷きや指差し・拳手による動作での話し合いに参加します。どんな意見にもポジティブなフィードバックを行い、安心して自由に考えを述べられる機会をつくります。
			人間関係・社会性	メモ係、資料を配布する係、タイマー係などを任せ、小さな役割を果たすことで発言をせざるも話し合いに参加できるように支援します。見通しが持てるよう、発言順序を決めたり、拳手で合図するルールを設け、不安感の軽減に繋がります。

事業所プログラム②

放課後等デイサービス Zoo



支援方針

子どもの障がい特性に配慮しながら、一人ひとりに寄り添い、子どもたちが安心できる暖かい場所（ウェルビーイング）を目指します。また日常の活動を通じて、五感を刺激し、日常の困り感を「遊びの力」で改善・解決できるように一緒に歩んでいきます。

支援内容

	活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
本人支援	わくわくゲームレク	週2回は「わくわくゲーム」の日。勝ち負けや、失敗する事、成功する事の経験値を増やし、達成感、自己肯定感のアップにつなげます。みんなと一緒に前向きに楽しく活動することで、苦手意識を克服し、健やかな心身を育めるようサポートします。	※事業所で実施している支援内容の一部です。	
			健康・生活	一人ひとりの障がい特性に配慮しながら、楽しくゲームレクリエーションができる環境を整えています。またゲームを始める際には、立ち位置に足跡、タッチする位置に手のイラストを貼るなど、わかりやすく構造化するなど工夫しています。
			運動・感覚	ゲームレクリエーションの中で行う全身を動かす粗大運動では、日常生活に必要な姿勢動作の維持・向上を目指し、手指等を使う微細運動では、手先の使い方等の機能向上を目指します。
			認知・行動	四季折々の季節を感じるゲームレクリエーションや様々な道具を使ったゲームを行うことにより、五感を十分に活用し、物の機能や、色・形・大きさなどの概念形成の習得を図ります。
			言語・コミュニケーション	ゲームレクリエーションの内容について、定期的に子どもたちの意見を聞く機会を設けています。またその際、発語が困難な子どもには、言葉だけではなく、ジェスチャーやカード提示などにより、それぞれに見合う伝達方法を提案しています。
人間関係・社会性	安心して集団参加に参加できるよう、子どもたちに寄り添った声掛け、行動支援を行っています。またルールや順番、役割等を付与することにより、社会適応能力の発達を促します。			

支援内容



活動プログラム		活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
本人支援	こつこつ 工作レク	20分～30分程度の季節感を取り入れた簡単な工作を行っています。 1人ひとりのペースに合わせた工程内容を提案し、達成感を味わえる作品づくりとともに、作成後も体験活用できる作品を提供しています。 また事業所内や関係先等へ展示した作品は、家に持ち帰ってご家庭でも作品の満足感等を共有してもらっています。	健康・生活	工作活動への切り替えが困難な子どもには、机に工作用マットを敷いたり、自身の椅子を用意することで、場面の切り替えが理解出来るよう支援しています。
			運動・感覚	苦手な工程があれば、スタッフと一緒に取り組んでみたり、どうしてもできない作業であれば、別の工程をしてもらいながら完成まで取り組んでいます。物に触ったあとすぐに手を拭けるように濡れタオルを用意します。
			認知・行動	見本を示しながら色や形を伝え、分かりやすいように一工程ずつ説明を行っています。また限られた時間の中でいつでも手助け出来るように傍にスタッフを配置し、達成感を味わえるよう工夫しています。
			言語・コミュニケーション	側にスタッフを配置することで発信しやすい環境を作ったり、カードや写真・ジェスチャー、指差しを活用して自分に合った意思表示（決定）の補助を行います。
			人間関係・社会性	安心できるスタッフや仲の良いお友達を配置した小グループを作り、助け合いながら、その中で工作活動を楽しく進めていけるように促しています。
	のびのび 運動遊び	室内での軽い運動遊びから、体育館や公園で思いっきり体を動かす運動等を行っています。 お友達と一緒に運動を取り組む楽しさを感じながら、体の使い方、手足の動きをコントロールする力を身につけるとともに、気持ちや感情のコントロールにも役立っています。	健康・生活	準備体操やウォーミングアップでは、スタッフが近くで見本を見せながら健康状態を観察・把握し、それぞれの体調に合わせた活動参加を行っています。
			運動・感覚	平均台、バランスボール、ブランコ等で平衡感覚や身体の調整能力、姿勢の安定性などの向上を目指します。ジャンプ遊び、ボール遊びなどで、自分の身体の位置や動き、力の入れ具合を感知する能力を高めます。やり方がわからない子どもには側にいるスタッフが支えたり、マークを置くなど工夫していきます。
			認知・行動	運動用具の色、形、大きさ、重さ、柔らかさなどを実際に触れながら五感に働きかけ、認知機能の発達を促しています。定期的に行っているサッカーであれば、ボールの跳ね方、転がり方、音の変化などを学び、楽しくサッカーの上達に取り組んでいます。
			言語・コミュニケーション	子どもたちの興味、関心に沿って、様々な運動が提案できる機会を設けており、発信が難しい子どもにはスタッフが側につき、ジェスチャーなどで意見を汲み取るようにしています。
			人間関係・社会性	イラストや手本などを通じて、運動の基本的なルールの理解を促しながら、最初はスタッフと1対1で行う簡単な運動からはじめ、徐々にお友達と楽しめる運動に取り組み、良好な人間関係の構築に努めています。

※事業所で実施している支援内容の一部です。

支援内容

放課後等デイサービス Zoo



本人支援	活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
				※事業所で実施している支援内容の一部です。
	音遊び (音色・リズム・メロディ)	音楽の力は、個性や表現力を引き出すアプローチとなります。 リズムやメロディに合わせ、お友達と同じ動作をしたり、同じフレーズを口ずさんだり、一緒に音楽を聴いて奏することで、社会性や協調性を学んでいきます。	健康・生活	音楽レクの始まりと終わりに同じ音楽を聴く事で活動の切り替えを促していき、一人ひとり楽器を用いて挨拶を交わすことで緊張をほぐし、楽しい音楽活動として馴染みやすい環境を整えています。
			運動・感覚	音の鳴る物からなるべく距離を取れるよう、活動時のスペースを苦しくならないですむよう、個々の特性に合わせた配慮をします
	チャレンジ 各種行事	クッキングやブックシアター、お誕生日会などを定期的に行うほか、夏祭りなどの季節の行事や地域の課外活動などイベント盛り沢山の活動に積極的に参加します。 色々な行事にチャレンジすることで、様々な経験値の向上を図りながら、地域交流の促進を行っています。	認知・行動	お手本を見せたり、表や絵カードを用いるなど、視覚的に説明を行い、活動するようにします。出来る・出来ないを把握し、個々のペースに合わせた活動をしてもらいます。
			言語・コミュニケーション	上手く自己表現、感情表出が困難な子どもには、音楽を通して気分を安定させたり、自分の思いを表現したりする手助けになるよう、心身の改善を図ります。
			人間関係・社会性	みんなで協力して一つの曲を演奏したり、踊ったりする中で、連帯感、親密感を育てています。内容が難しく指示が通らない時はスタッフが子どもに応じた声掛けを行い活動をサポートしています。
			健康・生活	事業所内で行う行事では、机やホワイトボードの配置、部屋の模様替えを行い、視覚的に活動をわかりやすくし、行事に集中できる空間演出を工夫しています。
			運動・感覚	クッキングでは、食への関心を持ってもらうとともに、調理の際に、スタッフが手本を見せたり、食材の感触が苦手な子どもには手袋をつけるなど配慮しつつ、完成をイメージさせながら進めています。
			認知・行動	ブックシアターでは子どもたちの表情を確認しながら、色、音、リズム等工夫しお話の世界を楽しんでもらいます。話の途中で子どもたちにも参加してもらい、小道具に触れさせ、形や柔らかさを感じられるようにしていきます。参加が難しい子にはみんなと離れた場所でスタッフが寄り添い鑑賞出来るようにします。
			言語・コミュニケーション	毎月のお誕生日会では、主役の子どもにインタビューしながら、感謝や喜びの思いを伝えてもらっています。発語が難しい子どもには、ジェスチャーや表情で表現出来るように手助けしています。みんなで歌ったり、祝ったりすることで、コミュニケーションの向上も図ります。
			人間関係・社会性	課外活動を通じて、公共の場で挨拶をする事を基本に行っており、地域の方との関わりを持ちつつ、社会的マナーが学べるように支援しています。また人との関わりが難しい子どもには、その場でみんなと同じ空間、同じイベントに無理のないように参加してもらい、一部別行動にするなどの対応を図っています。

事業所プログラム③

放課後等デイサービス Zooの駅



支援方針

- ・一人ひとりの個性を大切に必要なスキルを身につけてもらい楽しみながら成長できる支援を目指します。
- ・集団活動を通じて「できた!」「分かった!」を積み重ね、自己肯定感が高まる支援を目指します。

支援内容

本人支援	活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
				※事業所で実施している支援内容の一部です。
	クッキング	土曜、祝日、長期休暇等の昼食作り、週3回のおやつ作りを通じて、食事を作ることの大変さや喜びを味わいつつ、食に対する感謝の気持ちを育みながら、自己肯定感に繋がる支援を行っています。	健康・生活	調理を行う事で季節ごとの食材を煮る、炒める、揚げる等の調理方法、包丁、ピーラー、レンジホットプレート等の調理器具をスタッフと一緒に作る、使用する事により危険性を理解、器具の特性、正しい使い方等学べるよう支援しています。また、調理が苦手な子どもに対しては、選択カードを使用して参加を促しています。
			運動・感覚	調理を行う事で、「トントンと切る音」「ジュージューと炒める音と匂い」「食材の色が変わっていく様子」等色々な食材の感触や匂いを感じてもらい五感を育ててもらおうよう支援します。また、音や匂いが苦手な子どもがいた場合には、イヤーマフの使用や、匂いが薄い食材の使用をしていきます。
			認知・行動	自分で調理、工夫することにより、「どんな味だろう」「食べれそう」「美味しそう」等と感ずるよう促し、少しずつ苦手な食材にも挑戦克服につながるよう支援していきます。また、食に関心が薄い子には、調理に参加する事によって食事に興味を持てるように支援を行います。
			言語・コミュニケーション	調理過程において役割を分担し、分量を量る、食材を切る、混ぜる等に分かれ、その中で「この食材は切りにくい、固い」「順番を守ろう」「難しいから教えて」等の経験を通じて、コミュニケーションを図りながら調理し出来た事の達成感を味わい自己肯定感につながるよう支援します。また、発語が難しい子どもには、ペクスや手順書を通じて意思の疎通を図っていきます。
			人間関係・社会性	集団で料理を作る事により、難しい場合は友達に「手伝って」や年上の友達は年下の友達のフォローができるよう促し作る楽しさを感じてもらい協調性を身につけてもらうよう支援します。また、話しかけるのが苦手な子どもに対しては、絵カードの使用や、自分の思いを伝えられるように支援します。



本人支援	活動プログラム	活動概要	5領域を踏まえた支援内容	
				※事業所で実施している支援内容の一部です。
本人支援	体作り運動	毎月、スタッフが運動プログラムを作成し、週1回「体作り運動」を行っています。運動を通して体を動かす楽しさや身体能力、四肢の動作の改善や習得、筋力の強化維持を支援し、自己肯定感等の向上を目指しています。	健康・生活	ストレス発散や運動不足の解消に繋がるよう定期的に体を動かし（走る、ジャンプ、転がるなど）心身の安定を図れるよう支援します。
	本人支援	課外活動 (地域交流)	外出による課外活動を行う事で、広い視野を持つ機会を増やし、社会性を身につけてもらいます。地域で行われる行事やイベントへの参加を行い、積極的に地域との交流を図ります。	運動・感覚
認知・行動				「コーディネーショントレーニング」を用いて、事前にスタッフのお手本を見せ、体を動かす際はスタッフが支える等の補助に入る事で、体の動かし方や、動かす楽しさを感じてもらいながら、身体のバランス感覚を養うことができるよう支援します。
言語・コミュニケーション				スタッフのお手本や友達の動きを見て、良い点・改善点を話し合う場を設けることで、お互いの意見や考えを交換し、チームプレイを行った際は友達を応援、拍手をすることにより交流を図れるよう支援します。
人間関係・社会性				集団行動による運動を行う際、決まりやルールの必要性、怪我をしてしまう、友達の邪魔をするとトラブルになる等（全体の指示が難しい場合は個別に伝える）、協調性、チームワークの重要性を学べるよう支援します。
健康・生活				五感を刺激できるような場所（公園、工場見学、地域との交流など）へ外出することで心身の安定が出来るよう支援していきます。また、切り替えが難しい子どもに対してはタイマーや視覚化（絵カード、写真等）使用し支援していきます。
運動・感覚				基礎体力の向上、リフレッシュ、ストレス解消等を図りつつ、外出時の適切な行動を心がけることができるよう支援しています。また、感覚過敏等の子どもに対しては、事前に外出先を伝え、音、匂い、光等不安を軽減するためのイヤーマフ、サングラス、マスク等持参してもらうなど、外出時の安全に配慮した支援を行っています。
認知・行動	初めての場所が不安な子どもに対しては、事前に写真や予定等の見通しを分かりやすく伝え安心して外出や、公共のルールやマナーを学んでもらい社会性が身につくよう支援します。			
言語・コミュニケーション	車内ではミニゲームをしたり友達と一緒に出掛ける楽しさ、あまり関わりのない友達と意図的にグループを作る事により友達の輪を広げコミュニケーション能力が向上出来るよう支援していきます。また、コミュニケーションが苦手な子供に対しては、スタッフ、小集団から会話の練習を行い支援していきます。			
人間関係・社会性	地域との交流（挨拶や意見のやり取り等）を通じて、集団行動における他者との意見交換や、協調性、チームワークの重要性が身につくよう支援していきます。また、友達との関わりが苦手、不安な子に対してはスタッフがマンツーマン対応しスモールステップ（短時間、小集団等）で関わる事が出来るよう支援しています。			

支援内容



	活動プログラム	活動概要	5 領域を踏まえた支援内容 ※事業所で実施している支援内容の一部です。	
本人支援	ソーシャルスキル トレーニング (SST)	社会生活をおくる上で必要なスキルを視覚的に分かるよう伝え、その習得を目指します。 与えられた場面や状況について課題やロールプレイを行い、それに応じたふさわしい行動や、他者との関わり方について支援していきます。	健康・生活	健康管理や体調不良時にスタッフに言葉やサインで伝えられるようペクスや選択カードの使用方法を教え、「しんどいです」等の言葉やスタッフの肩を叩く等事前に声掛けをし伝えられるよう支援します。
			運動・感覚	集団活動、遊びの中でルールを伝え手や指先の運動、パズル、ハサミ、紐結び等（微細運動）や立つ、バランス、ジャンプ等（粗大運動）を取り入れ個々の特性に合わせスモールステップで進め支援していきます。
			認知・行動	あらゆる場面・行動で感情が高ぶる（興奮・イライラ）のか等課題を抽出し、自分の感情の度合いを確認してもらいながら、感情のコントロールが出来るよう支援します。課題やスケールの認識自体が難しい場合は、刺激になる物を見えないようにパーテーションを置いたり、カバーをかけたります。
			言語・コミュニケーション	一緒に遊びたい時や困った時、イライラした時等声掛けの仕方が分からない時には、その都度スタッフが適切な言葉を伝えたり、意図的に場面を作りコミュニケーションのとり方を教えています。また、発語が難しい子どもには、表情を表現する絵カード等の使用を促し支援しています。
			人間関係・社会性	友達と上手に関わることができ、場面、状況に適切な行動が出来るよう集団行動、協同遊びを促し、その中でスキルが身につくようスタッフが介入し支援していきます。集団への参加が苦手な子どもには、好きな事を主軸にした遊びを取り入れるなど、小集団の形成から支援していきます。
	ライフスキル トレーニング (LST)	日常生活に必要なスキルを、一人ひとりのニーズに合わせ、プリントや実践等を通じて、スタッフと一緒に楽しみながら習得してもらいます。 また、トレーニング活動を通じて、生活リズム等の見直しを図り、自立へ向けて支援していきます。	健康・生活	自分の体調管理が出来るようスタッフと生活リズムを話し、睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動、感染予防等を心がけているかまた、体調に合わせた過ごし方等アドバイスし支援していきます。また、食事、排泄、衣服の着脱等難しい子に対しては、視覚化や環境の工夫を行い支援していきます。
			運動・感覚	集団活動の中で、次への活動の切り替えや、環境の変化、季節の変わり目は不安定になりやすいため、新しい環境での過ごし方のシミュレーションをスタッフと行ったり、見通しを立てたりすることで、不安を取り除き適応することが出来るよう支援します。感覚過敏がある症状には、急がず徐々に新しい環境に慣れるよう環境調整を行います。
			認知・行動	公共交通機関のルール、時間の把握、計画に合わせた移動など、事前にスタッフと確認し、同行しながら、自立した行動できるよう支援します。一人ひとりの認知の特性を把握し、理解に向けて視覚化や個別対応など、一つずつ支援していきます。
			言語・コミュニケーション	日常生活の中で自分で行うことは自分で言い、出来ない事は人に頼る（教えて下さい）、相談（聞いて下さい）、助け（手伝って下さい）を求める等自分の気持ちを言語、非言語（身振り、手振り、表情等）で表現できるよう促しや実践を行い支援していきます。
			人間関係・社会性	普段の日常生活には、多くの危険やトラブルがあり、どんな状況や誘いに危険があるのか、男女感の距離や触れ方でもどんなトラブルや危険があるか等、具体的な場面等を想定し、スタッフとの話し合いや実践、文字・イラストを通じて支援していきます。